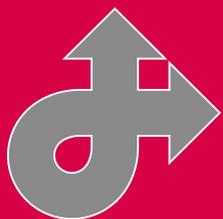


新制作

SHINSEISAKU



Vol. 65 / 2013  
新制作協会 広報誌

# 第77回展

国立新美術館 2013.9.18-9.30



## 2013 新制作 第 77 回展を迎えるにあたって

新制作展は今年第 77 回展を迎えます。1936年に9名の画家が結成を声明し新制作派協会を創立して以来、1945年を除く毎年、新制作協会展や新制作展の名称で公募美術展覧会を開催してきました。協会創立時は油絵部でスタートしましたが、第4回展で彫刻部が創設され、さらに第13回展からは建築部も加えられました。そこには3部が共存することで総合美術団体としての確固たる基盤を築こうという創立会員の決意があったと思います。その後3部は創立の精神を忘れず情熱と敬意をもって協調し前進を続け、日本の現代美術に少なからず影響を与えてきました。

私はリベラリズムと平等の精神を堅持している新制作協会に尊敬の念を抱いています。それは、権威を持たない純粋さと透明性を大切にしている清々しさを感じるからです。さらに3部の

公平性を理解する懐の深さにも敬意を覚えます。

公募美術団体の存在は日本特有ですが、長年に渡り作品発表の場を提供してきた意義は大きく、多くの作家の活躍をみても、文化の形成とその発展に重要な役割を果たしてきたといえるはずですが、もちろんどの団体でもやはり一人ひとりが純粋に美術やデザインを愛する気持ちを持って真摯に自己を見つめ、切磋琢磨を繰り返して更なる向上を探究するという意欲が根底になければならないことですが、その個人が固い意志と協調性のもとに結集すれば、必ずや大きな力となって高品位な展覧会を展開できるものと信じています。これは創立時の理念に込められた強いきずなを保ち続けることでもあると思います。

新制作協会は伝統を尊重しつつも未来に向かう鮮度の高い姿勢を追い求め



委員長  
たに こうじ  
谷 浩二

ています。また、存在意義においても運動体という大義名分は、もはや通用しないことを自覚し、広く社会に向けた発信力の増強を視野に活動を続けています。

応募をお考えの皆さまには、個性のぶつかり合いで互いに刺激を受け、それを糧に次へと進む形が自然体でとれる経験を味わって欲しいです。展示の制約でどうしても厳しい審査になる場合もありますが、ぜひとも果敢に挑戦して頂きたいと思います。また、各部門の会場とも気持ちの良い空気感の中に、見応えのある力作が並びますので、今年の第77回展もどうぞ期待頂きたいと存じます。

### 2013年度協会新代表委員

#### 〔代表委員〕

委員長 谷 浩二 (SD部)  
副委員長 鶴見 雅夫 (絵画部)  
" 石川 浩 (彫刻部)

#### 委員 ● 絵画部

太田 國廣、菅沼 光児  
林 純夫、武藤 岩雄

#### ● 彫刻部

久保 制一、瀬辺 佳子  
大田 雅代、渡辺 尋志

#### ● SD部

杉田 文哉、佐伯 和子  
白川 隆一



代表委員

#### 〔合同委員会〕

- 会計委員会
- 会計監査
- 広報委員会 (広報・PR/会報/HP)
- 美術館担当
- 慶弔委員
- 図録委員会 (図録/広報)
- 受賞作家展委員
- 美術団体懇話会

新制作展に初めて応募される方、すでに作品応募の準備をされておられる方へ…

作品公募制ですので、質の高い優秀な応募作品を期待し、貴作品による発言の場を設けています。

公募情報は、美術関係誌広告、協会発行の公募ポスター・リーフレット・応募規定、公式ホームページをご覧ください。

#### 応募申し込みと問い合わせは

- 電話 / 03-5603-8350  
(毎週月、水、金曜 10:00-17:00)
- Fax / 03-5603-8360
- E-mail /  
webmaster@shinseisaku.jp
- 公式 HP /  
http://www.shinseisaku.jp/

新制作協会 〒110-0013

東京都台東区入谷2-4-2 増田ビル202



※新作家賞受賞者には賞牌とし絵画部会員の鶴見雅夫氏の作品が授与されます。

### 第77回 新制作展

9.18 (水) - 9.30 (月)

10:00-18:00 (入場17:30まで)

## 国立新美術館

入場料 一般:800円 (学生無料)

金曜日夜間開館 20:00終了 (入場19:30まで)  
最終日 9/30 (月) 14:00終了 (入場13:00まで)  
休館日 9/24 (火)

### Information

#### 巡回展開催日程

◆ 京都展  
京都市美術館  
10/19 (土) - 10/29 (火)

◆ 名古屋展  
愛知県立芸術文化センター  
11/26 (火) - 12/1 (日)

◆ 広島展  
広島県立美術館・県民ギャラリー  
12/10 (火) - 12/15 (日)

## 各部より

### 絵画部

武藤 岩雄

会員の皆様、そして一般出品の方々のご尽力のおかげで77回目の新制作を迎えることができました。感謝申し上げます。最近のアートの状況は一変し、其の流れは大きくカーブを切りどこに向かっていくのか予想もつかなくなっています。

先般、古美術研究旅行で絵画の学生達を連れてイタリアへ行ったとき、数名で本屋に入りました。私は充実している画集売り場に行ったのですが、学生達が行ったのはファンタジーや漫画のコーナーでファインアートにはほとんど興味を示しませんでした。買っている本もフィクション・ファンタジーと漫画なのです。もう世の中は変わってしまったのだと実感しています。

いい絵を描いて会をみんなで鼓舞しそのアイデンティティを保つことは使命ですが、このアートシーンの現実を踏まえ新制作の方向を見いだすことが伝統と未来を繋ぐ礎になるものと思われれます。77回展は方向を見出す元年とし、今までの出品者はもちろん、若い出品者の心理を汲んで幅広いご判断を乞うものであります。新制作の伝統を守りその発展を願って制作に邁進していただきますようお願いもうしあげます。

#### ●オープントーク / 絵画展示室

9 / 18 (水) 14:00 ~ 16:30

会期初日のオープントークには会員や出品者が一堂に集います。この機会に積極的に会員を捕まえてください。

#### ●ギャラリートーク / 絵画展示室

9 / 22 (日) 14:00 ~ 17:00

展示作品をもとにトークを行います。参加者の質疑応答にも応えますのでぜひご参加ください。



### ●グッズ販売 / 2F 休憩室

会員作品のカンバッチやポストカードを販売致します。

### ●チャリティー販売 / 2F 休憩室

収益金は「東日本大震災チャリティー展」を継続し、昨年度と同様に震災遺児育英を目的としている「あしなが育英会」に寄付いたします。

### 彫刻部

渡辺 尋志

本年は77回展という人間の喜寿にあたる開催年数である。展覧会として成熟し余分なものをそぎ落とし十分に完成しつつあるのではないかと思います。

昨年は「芸術と社会」の企画展示とシンポジウムで多くの参加者と鑑賞者により高評価を頂き、今後の新制作の社会における役割を考えさせられる良い結果が見えました。

本展でも震災以来社会へ微力ながら貢献できればとチャリティーにより小作品とグッズの販売を継続します。また、昨年より写真印刷の格安ポストカード販売を始めました。本年はより一層参加作家の充実を図りたいと思っています。

初日にはオープニングトーク、期間半ばにはギャラリートークを予定しています。奮ってご参加頂ければと思います。懇親会は彫刻部だけの開催になりますので若い出品者、新しい出品者との交流を深めるにはいい機会になると思います。素晴らしい展覧会になることを願っています。

#### ●オープニングトーク / 彫刻展示室

9 / 18 (水) 15:00 ~

#### ●ギャラリートーク / 彫刻展示室

9 / 22 (日) 14:00 ~



### SD部

杉田 文哉

新制作スペースデザイン部（以下SD部）は空間におけるあらゆるジャンルのデザイン作品が対象となります。

展示空間として、床置きや壁付けに加え宙吊りや、照度をおさえた空間、また自然の光や風を感じる野外空間…加えて、5年目を迎えたミニアチュールも表現の場として定着し、展示空間において重要なアクセントになりました。

77回展を迎え、より一層の充実を目指し魅力ある会場づくりを考えております。さまざまな作品表現とその空間をご覧頂きたいと思えます。

#### ●レクチャー / 3F 研修室

(予定) 9 / 22 (日) 14:00 ~ 15:00

SD部会員立花克樹氏、山下勘太郎氏を講師に作家の制作現場や、その表現手段について具体的な解説を通して創作の魅力に迫ります。

#### ●フリートーク / SD 展示会場

(予定) 9 / 22 (日) 15:30 ~ 16:30

会員や出品者、また観覧者が自由に話し合える時間です。作品に対する質問や意見を交わせる有意義な時間です。

会員が会場でお待ちしておりますので、お気軽にお声かけください。

※ 尚、開催日時は変更になる場合がございます。詳細についてはホームページに掲載致します。ご確認ください。

#### ●チャリティーグッズの販売

大変好評を頂いております、会員によるスペースキューブと会員及び受賞作品の写真がきを会場にて販売いたします。尚、収益金は「あしなが育英会」を通じて「東日本大震災津波遺児募金」に寄付させていただきます。

SD部はこれからも創作活動を通じて被災された方々を応援いたします。



# 受賞作家展

絵画

銀座井上画廊

1/21 MON -1/26 SAT

- 受賞者
- 板谷 諭使
  - 海野 厚敬
  - 片山 裕之
  - 金井 健一
  - 山根 康代



金井健一  
原風景 I F100



片山裕之  
ある風景 F100



海野厚敬  
ハイドラングア F100



板谷諭使  
水の岩 F100

彫刻

ギャラリーせいほう

2/12TUE -2/22FRI

- 受賞者
- 市川 壮途
  - 江村 忠彦
  - 佐伯 皖子
  - ゼロ・ヒガシダ
  - 玉栄 広芳
  - 松本 弘司



市川壮途  
黒景  
35×145×40cm



江村忠彦  
おかえり  
67×95×45cm



新出こずえ子  
私の細胞の中の太古の記憶  
120×10×130cm



井野若菜  
道がいつばいの家  
440×530cm



建築会館ギャラリー  
2/11 MON - 2/16 SAT

- 受賞者
- 井野 若菜
  - 新出こずえ子
  - 神 芳子
  - 半澤 友美



半澤友美  
White Atmosphere  
260×100×220cm



山根康代  
作品 I P100



神 芳子  
フライング  
300×50×150cm



ゼロ・ヒガシダ  
INORI  
220×110×110cm



佐伯皖子  
Iさんの首  
30×14×23cm



玉柴広芳  
回想  
165×45×75cm



松本弘司  
森に聞く  
140×50×45cm

# 新制作生みの親・育ての親 <9>

絵画部会員 荒井茂雄

みなさん、こんにちは。近頃の気候は変化が激しいですね。雪が降るのかな、と思うような寒い日があったかとおもうと、真夏を思わせるような高い気温になったり、特に三月、四月と季節の変わり目は不安定ですが、みなさんはお元気ですね。

さて、今回は、創立会員の三田康氏が「第四回新制作派展」に掲載されている、工房スナップを選んでみました。

私が28歳の頃、三田康氏が「仕事をした後は、好きな模型を動かして子供になって遊ぶのが一番」と話をして下さったことを思い出しました。

## 工房スナップ 三田 康

天井からぶらさがった飛行機がひとしきり飛び廻ると——工房は再び不気味な静寂に歸へる。

……

頭が疲れた時、嬉しい時、興奮する時、何かすばらしき空想を夢みる時、私の愛すべき戦闘機は必ずそのゴム発動機がいっばいに廻轉させるのである。

プロペラの廻轉してゐる間は——それが實にほんのわずかな時間であっても——工房の空気は恐ろしい緊張と戦慄の一点に凝結されてゐる。ゴムが緩んで、プロペラがとまって——さて工房の檜を見返へして見ると實にどの檜もつまらなく見へる。それでハットする。



私はこのハット、頭をなぐられた様な瞬間を欲しいばかりにこんな玩具を愛用してゐるのである。時にはそのプロペラを廻すのが怖ろしくなる時もある。

満身これ闘志と云ったやうなフォルムでありながら、同時にそこには偉大なる美のフォルムがある。そのフォルムはたしかに既に獨立した一個の戦慄である。フロートの付いた水上機なども實にすばらしきフォルムだ。直線と曲線、水平と垂直、厚みと平面、大小のフロート、すべてが實にゆるみなき緊切な平衡である。科學の必然性が同時にこんなにも美しきフォルムを決定した。これは確かに愛すべき小宇宙である。

夏になれば水上偵察機は工房の中に運ばれた睡蓮の鉢の中でうまく沈んでしまわないように上から紐で水に浮かばされる。機首を上げて離水の時の格好、機首を下げた着水時の格好、水平すれすれのゼロ米距離と云ったような形、時には横轉、宙返りの形、何でも自由自在である。開け放たれた窓からの紺碧な空の色がそのわづかばかりの水面に映つるとこれは又格別な風景となる。

こうなるといつのまにか私はその箱庭風景である事を忘れて、この水盤の周りをぐるぐるあちらこちらから眺め

入ってゐるのである。水に映った機體の形、空の色、最早こゝに至っては一個の機體は完全に空間に於けるもろもろの物體と融合して完全に愛すべき小宇宙を現出する。立體的でしかも動的なこの愛すべき小宇宙の中には一分の緩み、一分の隙もない。

水面の飛行機、ぶらさがった模型を眺めながら私はその均齊と戦慄を何んとか仕事の上に具現出来ぬものかといつも本気に煩悶してゐる。

そうして私はいくつになつてもこのおもちゃを持って遊ぶ童心を失いたくないと思つてゐる。

三田康氏の工房の空間は宇宙空間とつながつて一ツになつてゐます。

ここに展開された小宇宙には豊かな感性が溢れて“宇宙に遊びして学ぶ”と云う自然の風景があり美しい。この「美しき喜び」を下さつてゐると。

生あるものはすべて小宇宙を内蔵して棲息しています。人間もこの小宇宙を自然界の大宇宙と波調を合わせて、このリズムに同調するならば、なつたこと総ては善、法悦至福の世界。

人間、神様ではありませんので、なかなか思うようにはなりません、つとめてこうありたいと、私はいつも叱咤激励の毎日です！

それではみなさん、今回はこれにてお別れいたします。次回の広報で又お会いいたします。

## 訃報 (平成25年4月末現在)

新制作協会発展に尽力された故人を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



鶴見雅夫

丸山 正三  
絵画部会員  
平成24年12月24日逝去  
(享年 101 才)



石田 琴次  
絵画部会員  
平成25年2月25日逝去  
(享年 78 才)



# 美術館探訪①



## 本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市内から西に車で15分程に位置する緑鮮やかな住宅地の一角にあり、生前、この地にあったアトリエ・ギャラリーを後に本館も設立。『本郷新記念札幌彫刻美術館』として1981年に開館し、30余年におよび1300点の作品を所蔵している、と案内に書いてあった。

学芸員の方の許可をもらい写真をとらせてもらう。

本郷新の作品といえば、市民にとっては大通り公園3丁目の「泉の像」は最も親しまれている彫刻であり、記憶の中に札幌を形づくり続けている風景の一部ではないかと思われる。まずは常設展示と彫刻十戒をのせ、美術館の雰囲気を感じていただく。

### 『彫刻十戒』

彫刻は形の芸術である。生涯を通じ、形とは何かを問いつめることは、彫刻を深める最も基本的な行為である。

\*

粘土のような、はじめから形なく、誰の手にも握ることの出来る素材ほど、形を得ることはむずかしい。そこには、自由があるから自らを規整しなければならない。

\*

形なきものに形を与えるには精神の緊張が必要である。しかもこれには終わりというものが無い。出来た形の一切は作者の全責任としてそこにある。残酷なる栄光。

\*

良質の石や木は作者を助ける。作者がその素材に甘え、よりかかった分だけ形の次元は低くなる。石や木や金属が美しければ美しいほど、これに抵抗することによって形は高まる。そこから彫刻の美が醗酵する。

\*

形はどこで生まれ、どうして生長し、どこにどうおさまるのかを知ることは難儀である。これほど単純でまた複雑な問題はない。これを知らうとすることは彫刻する行為以外には求められない。

\*

彫刻は徹頭徹尾、全人間的な、手のわざによる創造の世界である。そこに始めて、思想と精神と肉体の凝固した姿が見られる。彫刻的存在とは、このこと自身であり、その他の何ものでもない。

\*

発想・意匠・考案は彫刻以外の造形の中では雄弁である。造形作品の中でこの発想・意匠・考案などデザインの比重の多いものほど彫刻性は遠くなる。彫刻はもつと素朴な人間的手技によるものであり、それだけで充足するものなのである。

\*

彫刻の美は建築的建造物の美とは異なる。金属の表面を磨きあげた装飾用途の工芸品とは異なる。家具、什器、玩具のデザイン美とは異なる。

\*



札幌市宮の森4条12丁目  
☎ 011-642-5709  
休館日：月曜日

動いた、廻った、転んだと、幼児、児童が悦ぶ玩具を巨大にしても、本質はかわらない。玩具や機械は彫刻とは別の生いたちと働きをもっている。それはそれで一つの造形に違いはないが、彫刻の美に至ることはない。

\*

彫刻の存在は同時に生命体の存在である。古代彫刻を見よ、中世芸術を見よ、東洋の数々の古典を見よ、人類万年の歴史は、彫刻の何たるかをわれわれに教えている。軽佻浮薄の現代と恥じ、大自然と大古典を友とし、師と仰ぎつつ明日に向おう。

9月22日より「4つの星・札幌二中の彫刻家たち」(※本郷新、山内壮夫、佐藤忠良、本田明二は札幌二中に学び後に新制作彫刻部の創設に関わった方々です)をお報せし、来札の折は必見されたし、と云う事でこのコーナーを終わることとする。

SD部 中野 威



公募団体ベストセレクション  
Best Selection 2013

5月4日(土・祝)～5月27日(月)  
会場：東京都美術館

全国の主要な27の美術団体による年1回の合同展～「ベストセレクション美術2013」にご推薦頂き、大変嬉しく、心から幸せに思っています。

多摩美術大学大学院在学中に初めて新制作展に出品してから20年間、「流行」ではなく「本物」に成りたい一心で、目の前のことに全力を尽くしてきました。その間、自信が無く頭でっかちに成ったり、余りにも必死に成り過ぎて心が動きにくくなったり、また思うように制作時間が取れず焦ってみたい…。それでも手を止めること無く励

んでこれたのは、何があっても継続されてこられた先生方、先輩方のお心のこもった励まし、応援、アドバイスのお陰と深く感謝しています。有難うございました。

これからの新制作協会も伝統を守りつつ、否定されることを恐れず、新しい時代に合った方向性を見つけていけるような場であり続けると信じています。そして私自身もその一員として誇りを持ち努力致します。

今後共、かわらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

絵画部 武藤博美



出品会員

- 佐藤 泰生 「アトリエ 三本の筆」  
武藤 博美 「生きているという  
あたりまえの時空確認」  
竹内 一 「想いの場に一降ろすー」  
海野 厚敬 「WEATHER REPORT」  
瀬辺 佳子 「アジュール・ハレ」  
岩間 弘 「月舟」  
今村 敬子 「EMU12 turns round」  
齋藤 学 「家具のための  
ファンタジア/#04-05」



《伝言板》

絵画部物故会員丸山正三氏の作品展示及び収蔵館が6月1日よりオープン  
長岡造形大学 展示館 MaRouの杜  
新潟県長岡市千秋4丁目194番地  
☎0258-21-3408

編集後記

三部同時開催の新制作は他に類を見ない団体です。創立時の新芸術の確立、純粋芸術を目指したその精神を忘れず、互いに協力し合って切磋琢磨し、次の世代に伝えたいものです。

(千葉)

表紙絵／佐藤泰生



〒110-0013  
東京都台東区入谷2-4-2 増田ビル202  
Tel.03-5603-8350 Fax.03-5603-8360  
URL <http://www.shinseisaku.jp/>  
E-mail [webmaster@shinseisaku.jp](mailto:webmaster@shinseisaku.jp)

発行／新制作協会  
企画・編集／広報委員会 広報誌編集委員  
千葉文隆、辻井久子、岡孝博、  
永津守、中野威

監修／谷浩二  
製作・印刷／株式会社横浜プリント  
発行日／2013年5月

広報委員会では、新制作展に関わるニュース、伝言、ご批評、ご意見をお待ちしております。お気軽にお寄せください。次号をご希望の方は協会事務局迄ご連絡下さい。